

明治以降戦前の名所案内本にみる 東京の神社に対する関心の変遷

志村 遥奈¹・福井 恒明²

¹学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1, E-mail: haruna.shimura.6q@stu.hosei.ac.jp)

²正会員 博士(工) 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1, E-mail: fukui@stu.hosei.ac.jp)

東京は、明治維新における近代化や関東大震災による災害などで都市の姿を大きく変えてきたが、江戸以来の水系や町割りは江戸から東京へと引き継がれている。特に神社は、江戸時代以降天下普請や明暦の大火などの影響による都市計画上の移転を繰り返しながらも存在し続けていることから、江戸から引き継がれたもののうち重要な存在であると考えられる。その一方で、現代における神社では聖地としての在り方が変わり、人々の神社に対する関心は変化していると考えられる。本研究では、明治以降戦前に刊行された名所案内本のうち22冊を対象とし、神社に関する記述内容の言説を分析する。その結果、名所としての神社に対する関心が神社の立地する場所やその周辺との関連性に対するものから、神社そのものや神社の内部に対するものに変遷したことを明らかにした。

キーワード: 神社, 東京, 関心, 名所案内本

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

東京は江戸時代以来、明治維新による政治体制の変革、関東大震災による災害、太平洋戦争による市街の破壊と復興など世界の大都市の中でも有数の変貌を遂げてきた都市である。こうした変化は、世界の大都市には見られない東京の独自の特徴とされており、現在東京の都市の独自性への関心が高まっている。

1980年代には、小木新造が東京の都市の独自性を明らかにするには江戸から東京への発展過程を連続的に捉える必要があることを提唱し、「江戸東京学」が誕生した¹⁾。この「江戸東京学」において、陣内は、江戸から東京へと都市の様相は大きく変化した一方で水系や町割りは江戸から引き継がれていることを指摘している²⁾。

こうした江戸東京という都市の構造を捉える際に着目されるものの一つとして名所が挙げられる。特に神社は、江戸時代以降天下普請や明暦の大火などの影響による都市計画上の移転を繰り返しながらも存在し続けている³⁾ことから、江戸から引き継がれたもののうち重要な存在

であると考えられる。その一方で、江戸が新興都市として発展する中で名所が和歌の歌枕としてのナドコロから実際に訪れて見る場所へと変化してきたことが指摘されている⁴⁾ように、現代における神社もまた聖地としての在り方が変わり、それによって人々の神社に対する関心は変化していると考えられる。したがって、人々の神社に対する関心の変遷に着目することは東京の独自性を考えるうえで江戸東京へと引き継がれた都市構造の一端を明らかにできると考えられる。

そこで、本研究では特に関心や活動など認識の変化が大きいと考えられる明治以降戦前の東京の神社に対する関心の変遷を明らかにすることを目的とする。ここで、本研究における関心とは、東京を訪れるもしくは東京に暮らす人々など日常的に神社を参拝する人々が持つ、神社に対するものであると定義する。

(2) 既往研究と本研究の位置づけ

本研究同様、江戸東京の名所を対象とした研究として、まず名所の価値の変遷に関する研究が挙げられる。これには、江戸の名所案内本の構成や記述内容から新興都市

江戸の成長に伴い成立した近郊名所の特性と価値観の変遷について明らかにした岡野ら⁵⁾の研究や、江戸前期を通じた伝統的な名所についてその特性と価値の変遷、それらが明治以降どのように引き継がれたかを明らかにした羽生ら⁶⁾の研究などがある。これらの研究では、名所の価値は時代を経るごとに新たな価値が付加されていることが明らかになっており、その変遷には行楽圏域の拡大や都市整備による影響があることがわかっている。

また、名所のもつ特性およびその変遷に関する研究として、江戸～明治期の名所絵を対象に描かれた名所の分布や対象の変遷を分析し江戸東京の名所の特性を明らかにした樋口ら⁷⁾の研究もある。この研究では、永続する名所があることや新名所が旧来からの名所の近くに生み出されることから名所が場所を選ぶという特性が述べられている。

さらに、江戸東京の名所における風景とその「見かた」の変遷に関する研究として、名所絵に描かれた眺望点や眺望景、そこでの眺望体験に着目し江戸の眺望が現代においてどのように変化したのかを明らかにした千葉⁸⁾の研究や、風景の「見かた」の変遷を名所本の記述内容から分析・考察した馬木⁹⁾の研究がある。また、大宮ら¹⁰⁾は、「景」という風景の捉え方の観点について描写対象やその作品間での重複、風景の描かれ方に着目し、明治以降昭和時代の名所絵を分析・考察している。これらの研究では、名所絵に描かれた風景やその見方の変遷について江戸東京の風景の変遷には物的環境の変化が大きく関係していることを明らかにしている。

以上より、本研究の先行研究では江戸東京の名所全体の構成や名所そのものに対する変遷、江戸東京の風景の変容など具体的な対象の変遷について明らかになっていることがわかる。

本研究では、これらの知見を踏まえ、神社に対する関心に着目し当時の人々が神社のどの部分に関心をもちそれがどのように変遷してきたのかを考察することによって、都市東京の様相の変化を当時の人々がどのようにとらえていたのかを明らかにする点に新規性がある。

(3) 研究方法

名所案内本の記載情報は著者がさまざまな情報を取捨選択して掲載しているものであることから、実際にその名所に訪れる人々の活動を正確に表しているとはいえない。しかし、名所を訪れる人々はその記載情報をもとにその場所へと引き寄せられていると言えることから、名所案内本にみられる記述内容は人々の関心を表すと考えることができる。

以上より、本研究では、明治期から昭和戦前期の名所案内本に掲載された名所のうち神社に関する記述内容を対象とし、各神社に関する記述内容の抽出、分類を行い、記

述内容にみられるトピックの変遷について時代ごとの傾向を分析および考察する。

2. 調査対象資料

(1) 対象資料の選定

明治時代以降の東京の神社に対する関心が読み取れる資料として、名所案内本や新聞記事、グラフ誌、古写真、絵葉書などが挙げられる。これらの資料の明治以降昭和時代のものを確認すると、神社に関する記述や写真及び図などの内容から以下の特徴が読み取れた。名所案内本では各神社の所在や由緒、祭事の日程やその様子、境内空間の様子などさまざまな情報が読み取れる。新聞記事では、神社境内で行われる祭事の日程やその様子、境内で発生した事件などの非日常的な事象が読み取れる。また、グラフ誌や古写真、絵葉書などは神社を対象とするものの自体が少なく、神社に着目しているものについても祭事が行われている様子を収めたものが主であった。

名所案内本では著者が名所と判断した神社を取り上げている一方で、新聞記事やグラフ誌、古写真や絵葉書などは大きな行事が行われている神社や事件が発生した神社など話題性のある神社を取り上げており、日常的な関心については扱われていない。

以上より、本研究では日常的に神社を参拝する人々がもつ神社に対する関心について着目しその変遷を明らかにすることを目的としている点を踏まえ、江戸東京の名所としての神社について記載のある名所案内本を扱うこととした。

(2) 名所案内本の選定

明治以降戦前に刊行された名所案内本のうち、国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能であること、神社の所在や道順などの基本情報だけでなく由緒や境内の様子などの詳細にまで記述があること、「東京を訪れる際に用いる」という編纂目的であることを条件に、「東京名勝図会(1877)」や「大東京史蹟案内(1932)」など22冊を対象資料とした(表-1)。

3. 名所案内本にみる神社に関する記述内容の分類

(1) 調査対象とする神社

対象とした名所案内本22冊のそれぞれに掲載された神社を抽出し、そのうち2冊以上に掲載されている神社81社を調査対象とした(表-2、図-1)。

表-1 対象とする名所案内本一覧

資料名	著編者	出版社	刊行年	神社の掲載数(社)
東京名勝図会	岡部啓五郎著述、大沢南谷画筆	丸家善七	1877	35
画入 東京名所案内	安井乙熊	榊原友吉	1881	11
東京漫遊獨案内	梅亭金鷲	漫遊会	1889	32
新編東京独案内 明細図入	伊藤栄次郎編	金鱗堂	1890	37
東京名所図絵	原田真一編	双々館	1890	91
新撰東京実地案内一二三散史[稿]	—	薫志堂	1893	68
東京名所案内	浅羽肅也編	桜香武舎	1896	26
東京新繁昌記	金子佐平(春夢)編	東京新繁昌記発行所	1897	37
最新東京名所	東京沿革調査会	高岡書店	1900	30
東京横浜一週間案内	—	史伝編纂所	1901	25
東京遊覧案内	東京市編	博文館	1907	38
東京近郊遊覧案内	武藤鐸三著	毎日新聞社	1912	79
東京名勝古跡便覧	安川了編	東京名跡社	1912	40
東京案内	石倉翠葉編	実業之日本社	1914	37
東京案内	実業之日本社著	実業之日本社	1914	32
新東京遊覧案内	片桐以直著	赤山堂	1914	24
東京遊覧案内	伊波泰山編	東京遊覧館	1914	27
最新東京名勝案内	京豊吉編	広集堂書店、京屋書房	1918	38
東京視察案内	明治図書株式会社	明治図書	1922	12
遊覧東京案内	—	大東社	1922	32
大東京史蹟案内	一高史談会編	育英書院	1932	99
東京地方(ツーリスト案内叢書 第20輯)	—	日本旅行協会	1940	20

表-2 調査対象とする神社一覧

所在地	神社名	所在地	神社名	所在地	神社名
麹町区	日枝神社	赤坂区	赤坂氷川神社	浅草区	須賀神社
	平川神社		豊川稲荷		諏訪神社
	日比谷太神宮		乃木神社		今戸八幡宮
	靖国神社		須賀神社		石清水八幡宮
神田区	神田神社	牛込区	市ヶ谷亀岡八幡神社	本所区	榊神社
	三崎稲荷神社		赤城神社		玉姫稲荷社
	五十稲荷		築土八幡神社		三田神社
	お玉稲荷神社		築土神社		牛島神社
日本橋区	水天宮	小石川区	若宮八幡宮	深川区	秋葉神社
	杉の森稲荷		高田八幡宮		業平天神社
	佃島住吉神社		北野神社		富岡八幡神社
	お岩稲荷		白山神社		洲崎神社
京橋区	湊稲荷	本郷区	氷川神社	荏原区	穴守稲荷
	伊雑太神宮		難司ヶ谷鬼子母神		新田神社
	芝大神宮		根津神社		明治神宮
	愛宕神社		浅間神社	豊多摩区	大久保天満宮
芝区	金刀比羅神社	下谷区	妻恋神社		十二社
	西久保八幡神社		櫻木神社		松陰神社
	日比谷神社		湯島神社		大宮八幡神社
	東照宮		日暮里諏訪神社	北豊島区	石濱神社
麻布区	鳥森神社	浅草区	東照宮		王子神社
	三田春日神社		忍ヶ岡稲荷	南葛飾区	香取神社
	日比谷稲荷		鷺神社		白髭神社
	三田八幡宮		五條天神		吾妻社
麻布区	櫻田神社	浅草区	小野照神社	浅草区	水神社
	麻布氷川神社		鳥越神社		亀戸八幡宮
	出雲大社		浅草神社		

(2) 記述内容の抽出と分類

名所案内本 22 冊から調査対象とした神社 81 社に関するすべての記述内容(図-2)を抽出し(表-3),神社ごとに整理を行った。そこから、記述内容を確認し「所在」,「由緒・由来」,「祭神」,「祭禮」,「境内空間」の5項目に分類した。さらに、「所在」に関する記述内容を「地名」,「場所」,「交通手段」,「経路」の4項目に分類し,中分類として設定した。同様に、「由緒・由来」,「祭神」,「祭禮」,「境内空間」についても中分類を設定し整理した(表-4)。

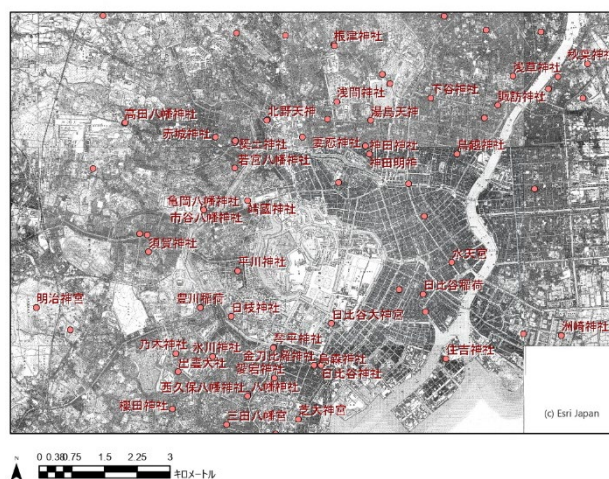


図-1 調査対象とする神社とその分布(16 社は郊外のため地図外)

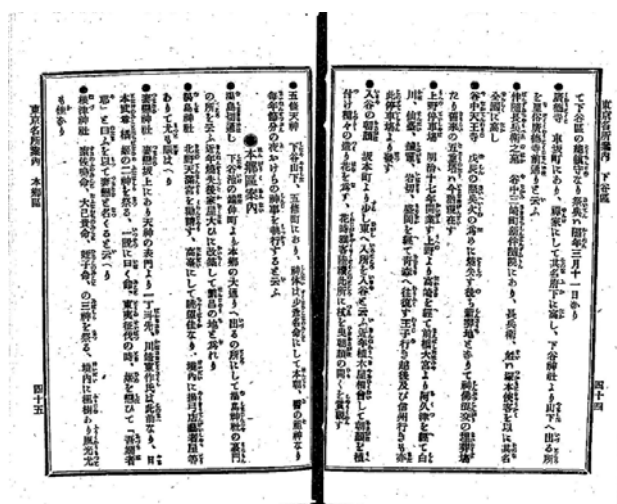
図-2 名所案内本の記述例(新撰東京実地案内(1893)¹¹⁾)

表-3 記述内容の抽出例

No.	神社名	記述内容
1	五条天神	下谷山下、五条町にあり、神体は少彦名命にして本朝、醫の祖神なり毎年説文の夜おけらの神事お執行すると云ふ
2	湯島神社	北野天満宮と勧請す、高臺にして眺望佳なり。永大に揚弓店藝者屋等ありて尤も賑はへり
3	妻戀神社	妻戀坂上にあり天神の表門より一丁斗先、川崎東作氏は此前なり、日本武尊橘姫の二神を祭る、一説に曰く命、東夷征伐の時、姫を戀ひて「吾婦者耶」と曰ふを以て妻戀と名くると云へり

4. 記述内容にみる神社に対する関心の変遷

(1) 分析方法

記述内容の分類項目（表-4）のうち、特に記述内容に変化が見られた「場所」、「交通手段」、「経路」、「建築物」、「設置物」の5項目に着目した。これらの項目についてはトピック（小分類）として立地や地形的特徴など細かい分類を設けた（表-5）。トピックそれぞれについて時系列変化を確認しその傾向が類似しているパターンに該当する神社を類型化する。各類型について変化の見られる時代や具体的な記述内容を分析し、神社に対する関心の変遷を考察する。

(2) 記述内容にみる類型ごとのトピックの変遷

類型ごとにトピックの変化について確認し、表に整理

表-4 記述内容の分類

大分類	中分類	内容	大分類	中分類	内容
所在	地名	行政区や町丁目	祭神	その他	総鎮守、産土神
	場所	地名ではない特定の場所や施設	祭禮	日程	大祭や例祭、祭日や縁日に関する内容
	交通手段	神社の最寄りの市電や地下鉄等の停留場名や駅名		商い/市	定期的に開催される市や商いに関する内容
	経路	停留場や駅から神社までの経路や前の地点からの経路		神事	祭禮とは異なる行事（神符の配布など）に関する内容
由緒・由来	社格	近代社格制度によって定められた社格		評判	祭禮や神社そのものの規模に関する内容
	創建	創建や建立の由緒・由来		人々の様子	祭禮に訪れた人々の様子に関する内容
	遷座	神社が遷座された時期や場所、背景に関する内容	境内空間	建築物	社殿や神楽殿などの建物に関する内容
	名称	名称の由来や、旧称・別称に関する内容		風景	境内からの眺望
	御利益	ご利益に関する内容		自然	境内の樹木や草花（桜、梅、紅葉、躑躅など）
祭神	祭神	神社に祀られている神の名称や神話に関する内容		設置物	鳥居や楼門など建物とは異なる建造物に関する内容
	相殿/配祀	相殿や配祀の神		周辺環境	神社周辺にある施設に関する内容
	合祀	合祀した神の名や経緯に関する内容		空間利用	境内の広さや使われ方に関する内容

表-5 記述内容のトピック（小分類）とその記述例

中分類	トピック(小分類)	記述例	掲載資料
場所	立地	此處は舊久留米藩有馬家の邸域内である。	「大東京史蹟案内（1922）」より水天宮
	神社以外のシンボル	増上寺大門附近	「東京新繁昌記（1897）」より芝大神宮
	地形的特徴	本郷妻戀坂上にあり	「東京近郊遊覧案内（1912）」より妻戀神社
交通手段	電車	市電市谷見附、(省線市ヶ谷驛)下車。	「大東京史蹟案内（1932）」より市ヶ谷亀岡八幡神社
経路	駅からの経路	澁谷で玉川電車に乗り三軒茶屋で降りて西に雑木林の間を行く十五丁	「遊覧東京案内（1922）」より松陰神社
	周辺施設からの経路	八百松樓より四町ばかり行くと、右方の田圃中に「三圃稲荷」あり	「東京横浜一週間案内（1901）」より三圃神社
建築物	外観	社は新築せられて壯嚴である。	「新東京遊覧案内（1914）」より穴守稲荷
	構造	神殿は土蔵造り白壁、重層入母屋造。	「大東京史蹟案内（1932）」より築土神社
	歴史	現時の社殿は文化十一年の起工、文政十一年の竣功で、	「東京案内（1914）」より須賀神社
設置物	神社施設	信者より奉納したる赤鳥居數町の間に並列す	「最新東京名勝案内（1918）」より穴守稲荷
	神社施設以外	境内の池に架けてある太鼓橋を以て名高い。	「東京視察案内（1922）」より龜戸神社
	神社施設及び神社施設以外	水行場、神水等あり、小池には噴水あり末社二社あり	「東京近郊遊覧案内（1912）」より金刀比羅神社

した（表-6）．記述内容や記述が現れる時代に着目して分析および考察を行う．また、参考資料として各神社の該当する類型を表に整理した（表-7）．

a) 場所

「場所」に関するトピックにおける変化の傾向から、「自然地形型」、「周辺シンボル型」、「歴史的価値付随型」、「境内公園化型」の4つに類型化した．

それぞれの記述内容や記述が現れる時代を確認すると、「自然地形型」では、坂や台地がある場所に立地しているという「地形的特徴」に関する記述が明治時代の間に継続的に現れている．このことから、名所としての神社が坂、台地の上や際に立地していたことが読み取れる．

次に、「周辺シンボル型」では、江戸城城門や橋、川や池などの自然地形、神社仏閣や聖堂などの宗教施設、大学や高等学校などの教育機関、そのほか遊郭やホテルといったさまざまな名所や施設など「神社以外のシンボル」に関する記述が明治～大正時代にかけて多くみられる．これより、神社周辺のさまざまな名所や施設が神社の立地を示すためのシンボルとされていることがわかる．

「歴史的価値付随型」においては、藩士の邸宅内や城門など境内とは異なる場所に立地しているという「立地」に関する記述が明治時代から大正時代にかけて現れているが、昭和時代になると記述はほとんどみられなくなった．また、記述内容から、神社が歴史のある場所に立地していることに意味があり、神社そのものの価値に付随してその場所に価値があることを示していることが考えられる．

「地形的特徴」や「神社以外のシンボル」に関する記述から「立地」に関する記述へと変化した「境内公園化型」では、明治～大正時代にかけて記述内容の変化が現れて

おり、該当する神社すべてにおいて公園内に立地しているという記述が1890年代以降にみられる．これは、1884（明治17）年の市区改正計画の中で神社境内を公園化し行政による管理が行われ始めたことにより1890年代以降に記述の変化がみられたと考えられる．

b) 交通手段

「交通手段」に関するトピックにおける変化の傾向は共通しており、「市電普及型」の1類型とした．記述内容から、下車する市電や省線の停留場や駅の名称に関するものが確認でき、該当するすべての神社において大正時代以降に記述が現れている．これは、1911（明治44）年に東京市で市電の運転が開始されたことが大きく関係していることが考えられる．

c) 経路

「経路」に関するトピックにおける変化の傾向から、「周辺施設型」、「駅からの経路型」の2つに類型化した．

「周辺施設型」は、明治～大正時代にかけて「駅以外の施設からの経路」に関する記述から「駅からの経路」に関する記述へと変化しており、「市電普及型」と同様に1911（明治44）年に東京市で市電の運転が開始されたことと大きく関係していると考えられる．

「駅からの経路型」においては、大正時代以降、昭和時代を中心に「駅からの経路」に関する記述が多くみられる．また、この類型に該当する神社は荏原郡や豊多摩郡など6郡地域に立地しており東京の中心部から離れていることから、他の名所や施設が周辺になく神社そのものを目的地として訪れることが推察される．

d) 建築物

「建築物」に関するトピックの変化の傾向から、「外観

表-6 トピックの変化による神社の類型化

中分類	トピックの変化	明治	大正	昭和	該当する神社(社)		類型
場所	なし	地形的特徴	—		4		自然地形型
		神社以外のシンボル			21		周辺シンボル型
		立地			3		歴史的価値付随型
	あり	地形的特徴	立地		2	7	境内公園化型
		神社以外のシンボル	立地		5		
交通手段	なし	—	電車		36		市電普及型
経路	あり	周辺施設からの経路	駅からの経路		12		周辺施設型
	なし	駅からの経路			3		駅からの経路型
建築物	なし	外観			6		外観型
		構造			3		構造型
	あり	外観		外観と歴史		5	外観及び歴史型
		外観		外観と構造		6	外観及び構造型
設置物	なし	神社施設			9		神社施設型
		神社施設以外			6		モニュメント型
	あり	神社施設		神社施設及び神社施設以外		5	施設付加型（神社施設）
		神社施設以外		神社施設及び神社施設以外		6	施設付加型（モニュメント）

表-7 神社の類型化一覧

所在地	神社名	場所	交通手段	経路	建築物	設置物
麴町区	日枝神社	境内公園化型	市電普及型	—	外観及び構造型	—
	平川神社	—	市電普及型	周辺施設型	外観及び構造型	—
	日比谷太神宮	周辺シンボル型	市電普及型	—	構造型	神社施設型
	靖国神社	自然地形型	市電普及型	—	外観型	施設付加型（神社施設）
神田区	神田神社	周辺シンボル型	市電普及型	—	外観及び歴史型	神社施設型
日本橋区	水天宫	歴史的価値付随型	市電普及型	周辺施設型	外観及び歴史型	神社施設型
京橋区	佃島住吉神社	歴史的価値付随型	—	—	—	—
芝区	芝大神宮	周辺シンボル型	市電普及型	—	—	神社施設型
	愛宕神社	境内公園化型	市電普及型	—	—	施設付加型（神社施設）
	金刀比羅神社	歴史的価値付随型	市電普及型	—	—	—
	西久保八幡神社	—	市電普及型	—	—	—
	東照宮	—	—	—	—	モニュメント型
	鳥森神社	—	市電普及型	—	—	—
赤坂区	赤坂氷川神社	—	市電普及型	—	—	—
	豊川稲荷	自然地形型	市電普及型	—	外観型	—
	乃木神社	—	市電普及型	—	—	—
四谷区	須賀神社	—	市電普及型	—	—	神社施設型
牛込区	市ヶ谷亀岡八幡神社	周辺シンボル型	市電普及型	—	—	—
	赤城神社	周辺シンボル型	市電普及型	—	外観及び構造型	施設付加型（神社施設）
	築土八幡神社	—	市電普及型	—	—	神社施設型
	築土神社	周辺シンボル型	市電普及型	—	構造型	施設付加型（神社施設）
	高田八幡宮	周辺シンボル型	市電普及型	—	—	施設付加型（モニュメント）
小石川区	北野神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	—	—
	白山神社	—	—	—	外観及び歴史型	神社施設型
	雑司ヶ谷鬼子母神	—	市電普及型	—	外観型	モニュメント型
本郷区	根津神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	外観及び構造型	モニュメント型
	浅間神社	—	—	—	—	施設付加型（モニュメント）
	妻恋神社	自然地形型	—	—	外観及び構造型	—
下谷区	湯島神社	境内公園化型	市電普及型	—	外観及び歴史型	—
	下谷神社	周辺シンボル型	—	—	—	—
	東照宮	境内公園化型	市電普及型	周辺施設型	外観及び構造型	施設付加型（神社施設）
	鷺神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	—	—
	五條天神	境内公園化型	—	—	—	—
	浅草神社	境内公園化型	—	—	—	モニュメント型
浅草区	須賀神社	周辺シンボル型	—	—	—	—
	今戸八幡宮	周辺シンボル型	—	—	—	—
	三固神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	—	施設付加型（モニュメント）
本所区	牛島神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	外観型	施設付加型（モニュメント）
	秋葉神社	周辺シンボル型	—	周辺施設型	—	—
	富岡八幡神社	境内公園化型	市電普及型	周辺施設型	外観及び歴史型	—
深川区	洲崎神社	周辺シンボル型	—	—	—	—
荏原郡	穴守稲荷	—	市電普及型	—	外観型	神社施設型
	新田神社	—	市電普及型	駅からの経路型	—	—
豊多摩郡	明治神宮	—	市電普及型	駅からの経路型	構造型	—
	大久保天満宮	—	—	—	—	施設付加型（モニュメント）
	十二社	—	市電普及型	—	—	モニュメント型
	松陰神社	—	市電普及型	駅からの経路型	—	モニュメント型
	大宮八幡神社	—	—	—	—	神社施設型
北豊島郡	日暮里諏訪神社	自然地形型	—	—	—	—
	王子神社	周辺シンボル型	市電普及型	周辺施設型	—	—
南葛飾郡	白髭神社	周辺シンボル型	—	—	—	モニュメント型
	吾嬬社	周辺シンボル型	—	—	—	—
	水神社	周辺シンボル型	—	—	—	—
	亀戸八幡宮	—	市電普及型	周辺施設型	外観型	施設付加型（モニュメント）

型」，「構造型」，「外観および歴史型」，「外観および構造型」の4つに類型化した。

「外観型」は，社殿の外観に関する記述が明治～大正時代にかけて継続的に現れており，昭和時代になると記述があまりみられなくなった。これは，1923（大正12）年に発生した関東大震災によって多くの神社で社殿が焼失したことが関係していると推察される。記述内容を確認すると，清潔や高潔といった穢れのない綺麗さ，美麗や華麗といった美しさや華やかさ，荘厳や壮麗といった社殿の広大さや立派な様子を表す内容がみられる。

次に「構造型」では，社殿の構造や境内の構成に関する

記述が大正～昭和時代を中心に継続的にみられる。記述内容をみると，神社のさまざまな構造や本殿や拝殿などの社殿に使用されている材木の種類といった建造する際に必要な情報となる内容となっている。

「外観および歴史型」においては，明治～大正時代を中心に「外観」に関する記述が現れたのち，昭和時代になると記述がみられなくなり，それと同時に「歴史」に関する記述が現れている。記述内容を確認すると，「外観」に関するものは広壮や壮大など社殿の規模に着目したものが多くみられていたが，関東大震災により社殿が被災したことで「外観」に関する記述はみられなくなり，境内が復

興していく様子に関する記述が現れるようになる。

「外観および構造型」では、明治時代以降「外観」に関する記述がみられるが、大正時代以降になると「構造」に関する記述も共にみられるようになる。記述内容をみると、「外観」に関する記述において明治時代には広壮や立派など社殿の規模に関するものや、華麗や華美などの社殿の美しさや表徴に関するものがみられたが、「構造」に関する記述が現れる大正時代以降には善美や輝きといった社殿の美しさや表徴に関するもののみがみられるようになる。このことから、火災や関東大震災による社殿の焼失を経験した人々が復興によって新たにできた社殿に対して新しさと美しさに着目していたことが推察される。

e) 設置物

「設置物」に関するトピックにおける変化の傾向を確認し、「神社施設型」、「モニュメント型」、「施設付加型（神社施設）」、「施設付加型（モニュメント）」の4つに類型化した。

「神社施設型」は、明治～昭和時代にかけて「神社施設」に関する記述が継続的に確認できる。記述内容を確認すると、鳥居や門の配置、材質、境内の摂社・末社の名称や由緒・由来などに言及されており、社殿以外のものに対しても着目されていたことが読み取れる。

次に、「神社施設以外」に関する記述が大正～昭和時代にかけて継続的にみられる「モニュメント型」は、歴史上の人物に関連する石碑や銅像、墓についての記述や、築山や池などの自然地形についての記述が多くある。このことから、歴史上の人物に関する石碑や銅像、墓、自然地形に着目されており、人々が群集している様子に関する記述もみられることを踏まえると、これらを保有していることは神社が名所とされた1つの条件であったことが考えられる。

「施設付加型（神社施設）」においては、明治～大正時

代にかけて石燈籠や鳥居の数や規模、末社の名称や由緒など「神社施設」に関する記述が継続的にみられており、昭和時代になると鳥居や門のほか池や築山、石碑といった「神社施設及びそれ以外」に関する記述へと変化する。これは、1932（昭和7）年に刊行された「大東京史蹟案内（一高史談会）」が史蹟踏査のために編纂されたものであり他の名所案内本と比較して境内にある史蹟に関する記述が多くあることが関係していると考えられる。

最後に、「施設付加型（モニュメント）」は、「神社施設以外」に関する記述が「神社施設及びそれ以外」に関する記述へと変化しており、この変化は昭和時代に確認できる。これは、1923（大正12）年に発生した関東大震災により数多くの神社が焼失したのをきっかけに社殿や境内の設置物の復興に取り組む神社が多くみられたため、神社施設の保護に対する意識が高まりその結果が名所案内本の記述に影響したと推察される。

(3) 時代ごとの神社に関する記述内容の変遷

以上より、類型化したものをトピックの変化した時期や記述の有無を踏まえて整理した（図-2）。ここから明治・大正・昭和の時代ごとに記述内容の傾向について分析および考察を行う。

明治時代には、ほとんどの類型がみられており、特に神社の立地する場所やその周辺環境、建築物や設置物など神社境内の内部に関する記述内容を含む類型が多いことがわかる。場所項目における「周辺シンボル型」や経路項目における「周辺施設型」など神社周辺の施設に関する類型が多いことから、神社を含めて周辺施設を巡っていたと考えられる。さらに、場所項目における「自然地形型」や「歴史的価値付随型」など立地する場所に関する類型が多いことから、立地する場所の重要度が高いことも推察される。これらのことから、神社周辺と境内の結びつきが

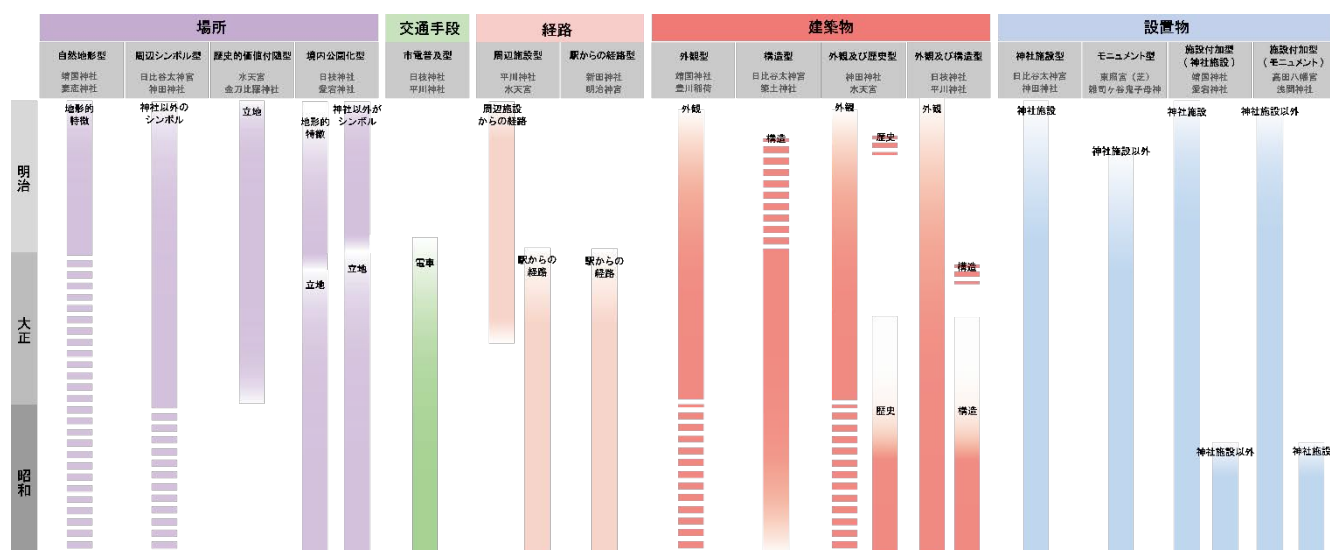


図-2 神社に関する記述内容の変遷

強い傾向にあるといえる。

大正時代になると、明治時代にみられた類型に加えて交通手段や経路に関する類型が現れていることやトピックが変化している類型があることがわかる。大正時代からみられるようになる類型は「市電普及型」と「駅からの経路型」であり、これらは市電の運転開始による交通の変化に伴い神社に目的地を絞って直接向かうことが可能になったことが影響していると考えられる。また、類型内で記述内容が変化したものは「周辺施設型」と「境内公園化型」である。「周辺施設型」においては「周辺施設からの経路」に関する記述内容から「駅からの経路」に関する記述内容に変化しており、前述のとおり交通の変化による影響であると考えられる。「境内公園化型」においては、浅草公園や深川公園など周辺の施設を集約し拠点として成立したために神社が公園の一部として位置づけられたことから、神社境内とその周辺の結びつきが弱まったと推察される。以上のことを踏まえ、大正時代は境内と神社周辺との関連性が希薄化する傾向にあったと考えられる。

最後に、昭和時代をみると、明治・大正時代にみられていた類型がみられなくなっているものや類型に該当する神社が減少しているものなどが現れている。「歴史的価値付随型」はみられなくなり、関東大震災による被害で歴史的なものや周辺の飲食店が焼失したことが影響していると考えられる。また、「自然地形型」や「周辺シンボル型」では、該当する神社が減少しており、同様に関東大震災による被害の影響があると考えられる。さらに、建築物や設置物の項目では「外観および歴史型」や「外観および構造型」、「施設付加型（神社施設）」や「施設付加型（モニュメント）」において、関東大震災によって被害を受けた建築物や設置物を復興する様子が新たなトピックとして記述にみられていたことから、復興によって新たに造られた建築物や設置物に対する注目が高まっていたと考えられる。したがって、昭和時代には関東大震災による被害で周辺環境が大きく変化したことで周辺との結びつきはさらに弱まり神社が確立され単体として捉えられるようになったことが推察され、神社単体のシンボル性が向上していく傾向にあったといえる。

(4) 東京の神社に対する関心の変遷

名所案内本に掲載されている神社に関する記述内容の変遷は4.(3)で述べた通りであり、これを踏まえて、時代ごとにどの類型が見られているのかを確認し東京の神社に対する関心について整理する。

明治時代には、江戸時代以降流行した巡覧の文化が引き継がれ周辺施設を含めて名所を巡っていたことや文明開化による西洋文化の流入により周辺に新たな施設ができたことなどから、神社周辺と境内内部の結びつきが強くその両方に対して関心がもたれていたといえる。大正

時代には、明治末期に市電の運転が開始されたことや明治以降に神社境内の公園化が進んだことなどによって、周辺との関連性が希薄化し神社周辺に対する関心は低くなったと考えられる。一方で、昭和時代になると1923（大正12）年に発生した関東大震災により大きな被害を受けた神社は境内の建築物や設置物の復興を進めたことで神社が確立して単体として捉えられたと推察される。このことから、周辺との関係性が分断され、神社単体のシンボル性が向上したため、境内内部に対する関心が高まったといえる。

ここまで述べた記述内容にみる時代ごとの特徴と神社に対する関心、それに影響を及ぼしたと考えられる出来事について整理し図に示した（図-3）。

以上より、東京の神社に対する関心は周辺との関連性に対するものから神社そのものや内部に対するものに変遷していることがわかる。また、このように周辺との関係性が変化してきたことは神社が江戸から東京へと引き継がれ存在し続ける理由の一つであると考えられる。

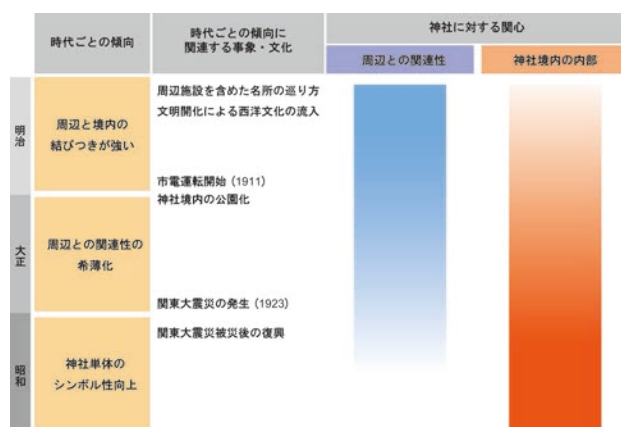


図-3 東京の神社に対する関心の変遷

5. おわりに

(1) 本研究の成果

本研究では、明治以降戦前に刊行された名所案内本22冊から神社に関する記述内容を分析し、東京の神社に対する関心の変遷を明らかにした。

東京の神社に対する関心は神社の立地する場所やその周辺との関連性に対するものから、神社そのものや神社の内部に対するものに変遷しており、その要因として、江戸巡覧の文化の継承や文明開化による西洋文化の流入など文化沿革、市電の運転開始や神社境内の公園化、関東大震災による災害からの復興など都市整備が挙げられることを指摘した。

(2) 今後の課題

本研究の記述内容の分析および考察に加えて、地図を用いることで類型ごとの分布や周辺環境・地形とのより詳細な関連性について考察できる。

また、名所の中でも神社について取り上げてきたが神社だけでなく寺院やその他の名所地に対する関心について扱うことで名所全体の関心の変遷を把握することができる。さらに、それらを踏まえて江戸から東京へ引き継がれたものとそうでないもの、それらの背景を探ることによって、東京の独自性の一端を明らかにすることができると思われる。

参考文献

- 1) 鈴木理生：江戸の名所と都市文化，吉川弘文館，p.13，2001.
- 2) 陣内秀信：水都 東京―地形と歴史で読みとく下町・山の手・郊外，筑摩書房，pp.191-192，2020.
- 3) 篠田明恵・福井恒明・中井祐・篠原修：江戸城下町における神社の配置とその傾向，土木史研究論文集，23巻，pp.157-164，2004.
- 4) 前掲1)，p.28，2001.
- 5) 岡野祥一・十代田朗・羽生冬佳：名所本にみる江戸期を通じた近郊名所の変遷に関する研究，ランドスケープ研究，65巻5号，pp.797-800，2001.
- 6) 羽生冬佳・岡野祥一：江戸の伝統的名所の特性と明治以降戦前までの名所としての価値の変遷に関する研究，ランドスケープ研究，66巻5号，pp.457-460，2003.
- 7) 樋口忠彦・杉山公彦：明治期東京の名所の変遷過程について―名所絵を対象にして―，都市計画論文集，17巻，pp.511-516，1982.
- 8) 千葉一輝：江戸・東京における眺望の変容に関する研究，日本建築学会計画系論文集，61巻481号，pp.157-166，1996.
- 9) 馬木知子：名所本にみる近代東京の都市風景の変容について，ランドスケープ研究，67巻5号，pp.623-628，2004.
- 10) 大宮直記・下村彰男・熊谷洋一：名所図会・百景にみる近代以降の東京における「景」の変遷に関する研究，ランドスケープ研究，58巻4号，pp.429-437，1994.
- 11) 国立国会図書館デジタルコレクション：
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/993994>，[最終閲覧日：2021年8月24日]